Angel Beats! ～After Story～

紅月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ａｎｇｅｌ　Ｂｅａｔｓ！　～Ａｆｔｅｒ　Ｓｔｏｒｙ～

【Ｎコード】
Ｎ４６９０Ｍ

【作者名】
紅月

【あらすじ】
皆さんお久しぶりです
やっと更新できましたねー
ＥＰＩＳＯＤＥ．０１Ｂは七巻の１３話Ｂを見てから作りますよー
あ、質問ありましたら感想までドゾー
そういえば、Ａｎｇｅｌ　Ｂｅａｔｓ！ゲーム化って本当？だれかおしえてー
名前変えました。正確に言うと元に戻りました。
前、所詮自己満です。

EPISODE．00　Angel　Beats！（前書き）

本編を見たこと無い人のために

EPISODE．00　Angel　Beats！

オトナシ　ユヅル
音無　結弦

本編及び、この作品の主人公

未練（後悔）は無いが、死んだ世界に迷い込んだ。
その時、同時に生前の記憶を失った。

タチバナ　カナデ
立華　奏

本編及び、この作品のヒロイン

死んだ世界の学園の生徒会長。
特殊なスキル（後述）を持つが、総て『ガードスキル』である。
死んだ世界戦線（後述）から天使として敵視されていた。

未練（後悔）は、心臓をくれた人にお礼を言えなかったこと。

ガードスキルについて
アクティブスキル（発動が必要）

Ｈａｎｄｓｏｎｉｃ：袖口から剣を出現させる（両腕）。Ｖｅｒｓｉｏｎ１～５まであり、
１普通の両刃の剣
２軽量化し、薄くなった両刃の剣
３でかいフォーク
４蓮の花？（切れるのだろうか）
５クローに近い

Ｄｉｓｔｏｒｔｉｏｎ：銃弾を受け流す障壁を体の表面に展開する。ただし、投げられた刃物類、ロケランなどの起爆性のある武器は受け流せないようだ。
Ｄｅｌａｙ：敵の近接攻撃が自分に当たる瞬間、高速移動で一瞬のうちに敵の背後に回り込む。
Ｈａｒｍｏｎｉｃｓ：分身体を作り出す。分身体の目は紅になっている。分身体も自我を持ち、また、ガードスキルを使用できる。通称、堕天使ちゃん。
Ａｂｓｏｒｂ：分身体を自分の体に戻す。なお、同時に分身体の自我も吸収するため、精神に負担がかかる。Ｈｏｗｌｉｎｇ：高周波を発し、敵を気絶させる。
これら以外に、純白の翼（可動及び、飛行可能）を出現させるスキルがある。（名称不明）

パッシブスキル（常時発動）
Ｏｖｅｒｄｒｉｖｅ：身体強化。片手で人を星になるくらい吹っ飛ばせる。

死んだ世界戦線メンバー

ナカムラ　ユリ

仲村　ゆり

死んだ世界戦線リーダー
愛称『ゆりっぺ』
音無が死後の世界に来て最初に会った人物。

未練（後悔）は、強盗から妹・弟たちを守れなかったこと。

ヒナタ　ヒデキ
日向　秀樹

死後の世界で音無をいろいろと世話した。故にホモ疑惑が…

未練（後悔）は最後の大会でエラーをしてサヨナラ負けしたこと。

ちなみにひできの漢字は、本編で出てきてないので、勝手に付けちゃいました☆キラッ

ナオイ　アヤト
直井　文人

死後の世界の学園の生徒副会長。催眠術を使うことができる。
音無に対しては従順だが、その他に対しては高圧的である。
生前は陶芸家だった。

未練（後悔）は、父親に認めてもらえなかったこと。

ガルデモ
正式名称Ｇｉｒｌｓ　Ｄｅａｄ　Ｍｏｎｓｔｅｒ
戦線の陽動部隊。
メンバー
一期
ボーカル＆リズムギター：岩沢
リードギター：ひさ子
ベース：関根
ドラム：入江

二期
ボーカル＆リズムギター：ユイ
リードギター：ひさ子
ベース：関根
ドラム：入江

第三話で岩沢が成仏したため、二期ができた。

その他メンバー
遊佐
椎名
大山

高松
野田
藤巻
松下
TK
など

本編の概略

EPISODE．00　Angel　Beats！（後書き）

これは、あくまで筆者の解釈です

本編を見て、私と違う解釈をしても、自分自身の解釈を信じてください

ＥＰＩＳＯＤＥ．０１Ａ　Ｒｅｕｎｉｏｎ（前書き）

まずは、
花澤香菜さん誕生日おめでとうございます。

そして、待っててくれた人（まあ、いないでしょうがね）、お待たせしました。

これは、原作１３話Ａに対応しています。
Ｂはのちほど・・・

誤字脱字は、感想か、レビューにお願いします。

EPISODE．01A　Reunion

――――――――――――――――――――あなたが信じてきた事を、あたしにも信じさせて。

――――――愛してくれて……、ありがとう。

――――――命をくれて……本当に……

ありがとう

「ハッ」

飛び起きる…夢…？

俺は夢を見ていたらしい。

まだ日は昇っていないみたいだ。時計を確認しようとして、視界がぼやけていることに気付いた。

目をこする……涙だ。

俺は…泣いていたのか？

夢の内容は思い出せない。

だけど、何となく、

悲しくて…そして、懐かしい夢

そんな気がした。

EPISODE01
Reunion

「お兄ちゃーん、起きてー、朝だよー。起きてー、遅刻しちゃうよー。」

「……ん、ふわぁ、おはよ、初音。」

「おはよ、お兄ちゃん。早くごはんたべないと遅刻するよ。」

時計を見る。7：40
メシ20分
準備5分
移動30分
→8：35
……どうみても遅刻です。本当に（ry
「……遅刻だー！！！！」
急いで一階におりる。
「おはよう、結弦。寝坊なんて珍しいな。」
「おはよう。早くご飯食べましょう。」
「おはようございます。叔父さん、叔母さん。ちょっと夢見が悪くて……二度寝しました。」

「どんな夢だったんだい？」

「それが…、覚えていないんです。ただ…悲しくて、懐かしかった事だけは何となく。」

「お兄ちゃん、前世の記憶だったりしてね。」

「かもしれないな。」
そう考えれば、懐かしく感じたことにも納得がいく。
まあ、信じると言えばまったくの嘘だが。
不意に、銀髪の少女のイメージが頭を過ぎる。
そうだ、夢にでてきた女の子だ。
誰かはわからない。
が、既視感がある。
って、考え事してる場合じゃない。

準備をして、家を出る。
時刻は、７：５５
なんとか間に合いそうだ。
「荷物は持ってやるから、少し急ぐぞ。」

「うん。」

この町、天上市で１番大きな学校、天上学園。
その高等部に俺、音無結弦が、中等部に妹、初音が通っている。
俺は高二、初音は中三だ。
小高い丘の麓に初等部、中腹に中等部、頂上に高等部が位置し、大学は街中に位置している。

学生のほとんどが寮生だが、俺達は自宅通学である。
余談ではあるが、学校の前にある坂、これが自転車を漕いでのぼるには急で、歩いてのぼるには長いという鬼畜っぷりを発揮しているため、寮生が多い……らしい。

バイト等も可でありミュージシャンとしてデビューしている生徒さえいる。（ちなみに、同学年である）

「じゃ、かんばれよ。」

「お兄ちゃんもね。」

初音と別れ、坂をのぼる。

「音無、はよー」

教室に入ると、友人、日向秀樹に挨拶される。

「おはよ、日向。」

「俺さ、変な夢見たんだよな。」

「お前もか？」

「ああ、なんか懐かしい感じのする夢だった。も、ってことはお前もか？」

「ああ。俺の夢は懐かしくて悲しい夢だった。ほとんど覚えてない

けどな。」

「悲しい？」

「ああ。」

「そういえば、女の子が出てきた。銀髪の女の子。」

「銀髪の女の子といえば、うちの生徒会長さんじゃねえか。」

天上学園高等部生徒会長、立華奏は、成績優秀、スポーツ万能、品行方正と、絵に描いたような優等生である。ただ、少々無口である。

何となく、銀髪少女のイメージと重なっていると感じた。

立華の席のほうを見る。

目が合った。

立華は不思議そうに首を傾げた。俺は慌てて目を逸らす。

「……まさか、ね。」

◆◆◆

二日後の土曜、俺は参考書を買いに大通りにある本屋に向かった。

俺は、医学部志望だ。

一昨年、初音が命に関わる病気に罹った事がきっかけで医者を目指しはじめた。（初音はもう完治した。）

当然猛反対された。
当時の成績はしたから数えた方が早かった。
けど、高校生になってから猛勉強した俺は、高一の終わりには半分より上、高二の最初の定期考査では理系で十番に入った。（そういえば一位は立華だったな。）

参考書を買って、帰り道。

あれは…立華？
建物に寄り掛かって、携帯を開いている。
すれ違う寸前、彼女が鼻歌を歌っているのに気がついた。
これは、『Ｍｙ Ｓｏｎｇ』…？
それに、この鼻歌、前にどこかで……

瞬間、多くのイメージが頭の中を駆け巡る。
彼女に、夜の学校で初めて会った。
彼女に、心臓を刺された。
彼女を、銃で撃った。
彼女と、みんなで戦った。
彼女に、名前を聞いた。
彼女と、麻婆豆腐を食べた。
彼女と、一緒に地下室に閉じ込められた。
彼女と、釣りをした。
彼女と、一緒に料理をした。
彼女は、彼女に姿が似た敵から守ってくれた。
彼女は、相打ちになって倒れた。

彼女は、敵に攫われた。
彼女を、俺達は救出した。
彼女は、俺達の仲間になった。
彼女と、みんなの心残りをなくすために行動した。

いつの日か、俺は彼女の事が好きになっていた。

彼女と、仲間と一緒に卒業式をした。
彼女に、愛している事を告げた。
彼女に、ずっと一緒にいようと言った。
彼女は、俺に「ありがとう」と言った。
そして――――――――――――――――――――――――

彼女は、消えた。

思い出した。
あの夢は、前世が死んだ後の出来事。
奏に、また会えた。
これは奇跡だろうか？
運命だろうか？
いずれにせよ、神様に感謝しよう。

あの世界があったんだ。
きっと神様だっているだろう。

後ろを振り返ると、奏はどこかに行こうとしていた。
慌てて追いかける。
そして――――――――――――――――――――

「奏っ！！！」

「…………………音無君？どうしたの？」

覚えてない…………？
愕然とする。
そうだよな。
俺が思い出したからといって、みんな思い出すなんて、都合良すぎるよな。
これじゃ変人みたいじゃないか。

「ごめn「ふふっ、冗談。結弦、久しぶり………でいいのかな？」

………からかわれていたらしい。
「覚えてないかと思ったよ。」

「………あたしは中学生のときには思い出していたわ。」

「…………すまん。」

「ううん、ちゃんと思い出してくれたから。」

「そういえば、どこに行こうとしてたんだ？」
「麻婆豆腐店に行く予定だったんだけど、ゆりが来れなくなったから、帰ろうかなって。」
「んじゃ、一緒に行かないか？奢るけｄ「行く。」決まりだな。」
麻婆豆腐店に向かう。
どちらからとなく、手を繋いで。
「～～～～～～～～～～～辛っ！！！ってこの味…」
辛いっ！
てか辛いっ！！
「驚いた？あの世界のと同じ味でしょ？」
顔色一つ変えずに食べてらっしゃる。
訂正、おいしそうに食べてらっしゃる。
「ああ。相変わらず殺人的な辛さだな。それでいて旨いからたちが悪い。」
「……そんなに辛いかな。」
「……」
店を出て、近くの公園にきた。
ベンチに座って、しばらく話しをした。
「そういえば、他の人たちは思い出してないのかな？」
「ゆりは思い出していたわ。またあの事件がおきたけど、妹さんた

ちはみんな無事って言ってたわ。」
「そっか、それは何よりだ。」
「うん。あの世界に行く原因になった出来事はが最悪の結果にはなっていないけど起きてるみたいね。前回おきた時期ともズレてるみたい。」
「確かにそうだな。俺の妹の病気も、二年早いし。……って、奏は大丈夫なのか？」
「うん。今のところはいたって健康体。」
「おきないといいな。」
「うん。」
「……なあ、奏。」
「なに？」
「あの世界での最期、覚えてるか？」
「……うん。」
心なしか、顔が赤い……気がする。
ベンチから立ち上がり、奏の方を向く。
奏も立ち上がり、こっちを向いた。
「もう一度伝えたいんだ。俺の……気持ち。」

「……うん。」

「……奏、愛してる。」

「……うん。ありがとう、結弦。」

「ずっと、ずっと一緒にいよう。」

「うん。ありがとう。」

「奏、俺と……付き合ってください。」

「……」

「……かなd」

唇を塞がれる。

目の前には、奏の顔。

時が止まる。

一瞬の出来事だったのだろうか。

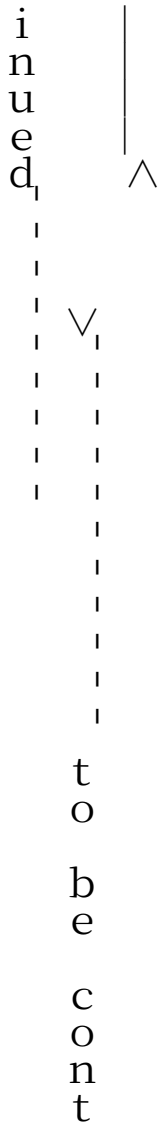
一分ほどそうしていたのだろうか。

顔が離れる。

「あたしも、結弦のこと……愛してる。」

今度は、俺から唇を重ねる。

夕日の中、二人の影は一つになった。



EPISODE．01A　Reunion（後書き）

やあ。（、・ω・、）
ようこそ麻婆豆腐店へ。
この麻婆豆腐はサービスだから、食べて落ち着いて欲しい。

うん、『また』なんだ。
すまない。
試験でこけてしまったんだ。
次回の更新は、３月６日か、１２日になりそうなんだ。

仏の顔もって言うしね。
謝って許してもらおうとも思ってない。
謝ったところでどうにもならないし。

でも、この小説を見たとき、
君は、きっと言葉では言い表せない『ときめき』みたいなものを感じてくれたと思う。

殺伐とした世の中で、そういう気持ちを忘れないでいてほしい、

そう思ってこうなった訳じゃないから、安心してほしい。
僕は安心できないけどね。
慢心はしていた。
反省している。後悔もしている。

それじゃ、感想を聞こうか。

お知らせ

浪人しちゃいましたｗｗｗ

一応国公立の農学部受かったんですけど、医学部行きたかったんで蹴りました

そんな訳で勉強しまくって荒んだ心を癒すための息抜きとして、以前にもましてちまちま更新します

お気に入り登録してくれてる十六人はじめ、読んでくれてる皆様、

サーセンｗｗｗｗｗｗｗｗ

ホントにごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめ

んなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめ
んなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめ
んなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4690m/

Angel Beats! ～After Story～

2011年3月19日20時09分発行